

漏水状況の経年比較について

過去5か年漏水修理件数

2018.3.31現在

(1)漏水調査委託により発見し、対応した漏水件数

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
①宅地内漏水数(件)	2	4	39	38	43
②公道内漏水数(件)	1	5	7	4	6
合計(件)	3	9	46	42	49
修理費用合計(円)	119,950	464,508	1,712,664	854,604	992,952

(2)漏水調査委託以外で発見し、対応した漏水件数

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
①宅地内漏水数(件)	17	5	10	40	20
②公道内漏水数(件)	27	47	57	35	24
合計(件)	44	52	67	75	44
修理費用合計(円)	3,501,185	5,742,592	6,899,040	5,498,619	3,897,142

【過去5か年の漏水修理件数】

第1回審議会で示した過去3か年分の漏水修理件数に追加し、過去5か年分の漏水修理件数を調査しました。

(1)については、2015年度より漏水調査委託の調査方法を変更し、調査範囲を拡大していることから、漏水修理件数が増加しています。

また、(2)では、年度によりばらつきがありますが、概ね増加傾向となっています。

次頁に(1)、(2)の合計と有収率及び有効率の推移について示します。

漏水修理の集計表

2018.3.31現在

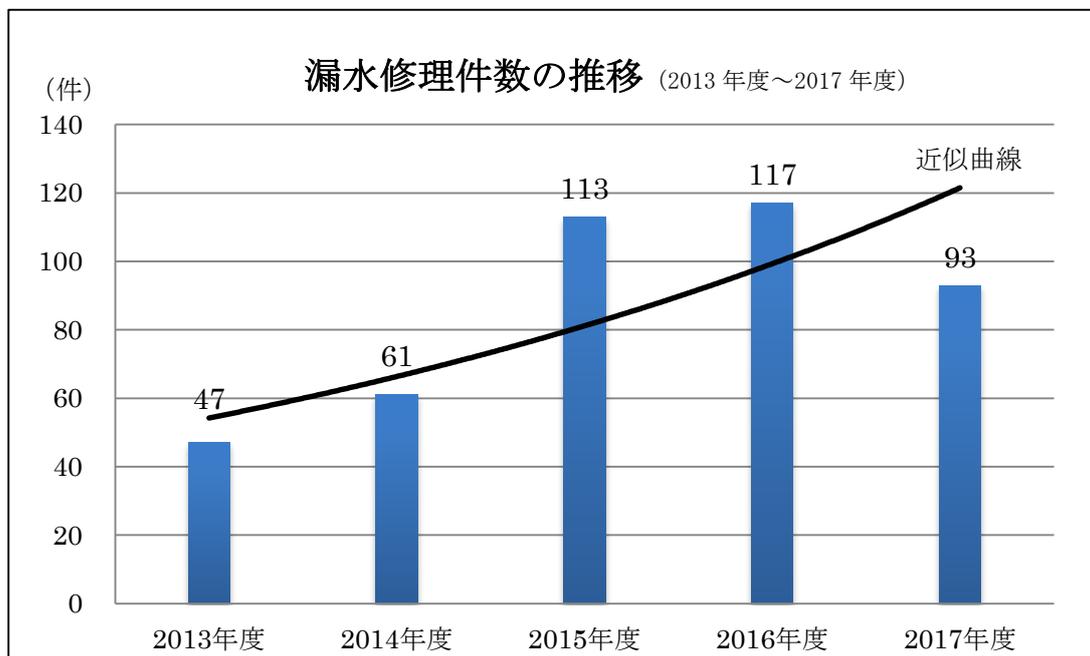
(1)+(2)漏水修理集計表

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
①宅地内漏水数(件)	19	9	49	78	63
②公道内漏水数(件)	28	52	64	39	30
合計(件)	47	61	113	117	93
修理費用合計(円)	3,621,135	6,207,100	8,611,704	6,353,223	4,890,094
有収率(%)	85.08	82.99	85.00	86.87	
有効率(%)	85.43	83.30	85.15	87.18	

「有収率」 = 「給水した水量」に対して
「料金収入のあった水量」の割合

「有効率」 = 「給水した水量」に対して
「料金収入のあった水量」 + 「収入はないが有効に利用された水量※」の割合

※有効に利用された水量とは・・・工事に伴う管洗浄や配水池の清掃等に使用された水量のこと



【漏水修理件数の推移】

2013年度から2017年度までは、漏水修理件数が概ね増加傾向となっています。

また、有収率及び有効率は、2014年度以降上昇傾向となっており、効率的に給水されている状況です。